

合志市立合志中学校における 剣道授業の実践紹介

合志市教育委員会

合志市は熊本県北に位置し、古代から中世に至るまで時代により盛衰はあるものの、常に地方行政の中心地としての命脈を保ってきた歴史を持つ。近年は、熊本市のベッドタウン的な性格を有し、人口が急激に増加している。

本校は、今年度、学校創設72周年を迎える。生徒数820人となる大規模校である。

平成28年4月、熊本地震により校舎の一部と武道場が被災。体育の屋内競技や集会等で使える施設が体育館のみという状況になる。そのため、剣道の授業も体育館での実施となったが、授業時数の確保が難しく、1・2年で合計9時間の授業実施となった。そこで、短い授業時数の中、いかにして剣道の特性を学ばせ、楽しく、意欲的に活動できる授業ができるかという視点で実践を行った。ここでは、平成28年度入学生が、1・2年時に学習した剣道授業について紹介していく。



鎌倉時代より合志郡の統治拠点となった竹迫城の跡地。現在は自然の地形を生かした竹迫城跡公園として整備

1 授業実践

本校には保健体育科の教師に剣道の経験者がいることから、武道の授業を剣道として行っている。しかし、1年時に4時間、2年時に5時間という限られた授業時数の中

で指導できる内容には限界がある。そこで、剣道経験者として生徒に伝えたい内容を厳選し、その内容について楽しく主体的に学べる授業作りを目指した。

そのために、中学校学習指導要領に定められている「相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、打ったり受けたりするなどの攻防を展開すること」ができるように、1年時の目標を「素振りができるようになる」、2年時の目標を「簡単な試合ができるようになる」と設定し、下の表のような指導計画を立てた。

(1) 1年時の授業実践

1年時の到達目標を、「大きく」「正しく」「声を出して」素振りができるようにすることとした。そのため、楽しく、主体的に学ん

武道場が被災したため、武道授業は体育館で実施している



剣道の指導計画

時	1年時				2年時				
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
学習内容	・オリエンテーション ・礼法 ・竹刀の扱い方 ・新聞を一刀両断しよう、	・足さばき ・足さばきDEだるまさんが転んだ。 ・素振り	・大きな声を出す ・おいでゲーム、	・素振りテスト	・1年時の復習 ・礼法 ・構え ・足さばき ・素振り ・跳躍素振り ・リズム稽古、	・剣道具の扱い方、 ・着 ・間合いの攻防 ・間合いの攻防ゲーム①、(ハチマキとり)	・基本打ち面、 ・小手、 ・胴のしかけ技	・仕掛け技の攻防の展開 ・間合いの攻防ゲーム②、 ・地稽古	・簡単な試合 ・時間内に何本打てるか、
目標	・礼法を身に付ける ・竹刀を真っ直ぐ正しく振れるようになる	・正しい足さばきを身に付ける ・手と足を連動させて竹刀を振れるようになる	・大きな声を出して素振りができるようになる	【評価基準】 ・竹刀をまっすぐ振れているか ・足さばきは正しいか ・大きな声が出ているか	・1年時の学習内容を思い出す ・基本動作を音楽に合わせて主体的にできるようになる	・剣道具の扱い方を知り、身に付けられるようになる ・間合いの攻防の必要性を知り、感覚を身に付ける	・間合いの攻防から面打ち、 ・小手打ち、 ・胴打ちを身に付ける	・攻守に分かれて、 ・間合いの攻防から有効打突を狙うことができるようになる ・お互いの技の攻防ができるようになる	【評価基準】 ・思い切った打突ができているか ・間合いの攻防ができているか ・大きな声が出ているか

でいくための手立てとして、毎時間の学習内容に合わせてゲーム感覚でできる活動を用意した。

○、新聞を一刀両断しよう、

両端を持って支えてある新聞紙を竹刀で一刀両断する。力まかせに振ってもただ破れるだけなのが、まっすぐに、手首を効かせて振ると真つ二つに切ることができるところを体験した。



新聞一刀両断の様子

○、足さばき DE だるまさんが転んだ、

すり足を用いての送り足等の足さばきを学んだら、その足さばきで構えを崩さず自在に動けるよう



だるまさんが転んだの様子

になる必要がある。動くことと止まることを繰り返す「だるまさんが転んだ」を、剣道の構えと足さばきを用いて小グループで実施した。

○、おいでおいでゲーム、

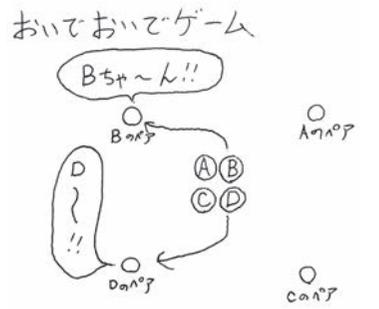
日頃、大きな声を出すことに恥じらいや抵抗感がある生徒も少なくない。そういう生徒たちが楽しむながら大きな声を出す機会とするために、「目隠しした友達を大



おいでおいでゲームの様子

きな声で呼びよせるゲーム」を実施した。

普段はおとなしい女子生徒でも、友達となら大きな声を出し合え、楽しく活動できていた。



以上のような体験活動から、剣道の基本的な要素を学ばせ、素振りのテストに臨んだ。グループ内で、「マジでめっちゃ声ださうね!」と、お互いに声をかけ合うなど、生徒の意欲を感じる光景が見られた。

(2) 2年時の授業実践

2年時の到達目標を、実際に剣道具を身に付けて簡単な試合ができるようになることとした。

しかし、元気の良い生徒ほど、ただ竹刀を振り回して闇雲に相手を叩き続けるような試合に陥ってしまうことも考えられる。そこで、剣道の基本技能を修得させつつ、お互いに構え合った間合いで、攻防の展開を大事にする試合を、限られた授業時数のなかでできるようにするために、次のような手立てをとった。

○リズム稽古

1年時に学んだ基本的な動作を反復練習するため、毎時間の冒頭に、足さばき、正面・上下素振

り、跳躍素振りを、アップテンポな音楽のリズムに合わせた形で実施した。留意点をしっかりと示した後、音楽に合わせて自然と運動させることで、指導時間の短縮と運動量の確保に繋げることができた。



リズム稽古の様子

チマキをぶら下げる。もう片方がそれを取りに来るので、捕られないように相手の仕掛けに対してハチマキを握る。この展開を、フェイントや、「ヤー」といった発声を織り交ぜながら行う。また、相手を尊重する姿勢を学ばせるために、勝っても喜びを表現せず「ありがとうございました」と言ってお互いに礼をするよう指導した。



間合いの攻防ゲーム①の様子

○、間合いの攻防ゲーム、

お互いに構え合った距離で、足さばきやしかけ、相手の様子をうかがうなど、間合いの攻防の要素を感覚的に掴ませるために、ハチマキとりを実施した。ペアをつくり、片方が手刀をつくった手にハ

チマキとりが、間合いの攻防ゲーム①。②では、実際に剣道具を身に付けた状態で、間合いの攻防から、片方は面、小手、胴の

いづれかを打突する、もう片方は防ぐといった展開で実施した。

簡単な試合は、1分間で有効打突を何本打てるかという形式で行った。有効打突の条件は、「打突部位を捕らえていること」と、「大きな声が出ていること」とし、相互審判で実施した。一足一刀の間合いで声を出し合いフェイントを織り交ぜながら攻防する姿や、相手の隙を見て打ち込んでいく姿があり、見応えのある試合ができていた。

(3) 生徒の感想
学習カードや生活ノートの感想から

○剣道は、痛いか怖いと思っていただけ、やってみたらすごく楽しかった。はやく試合ができるようになった。(男子生徒)

○今日は剣道で左座右起を習い、なるほどなと思いました。座り方、立ち方が決まっています、昔の人はすごいなと思いました。(女子生徒)

2 おもい

○今日、剣道の試合をしました。自分は弱くて打たれてばかりだったけど楽しかったです。へたなのと楽しいは別です。(男子生徒)

○2年生から剣道が苦手になりました。剣道の授業は好きなのですが、上手にできなくて、もやもやします。先生！教えて下さい！(男子生徒)

生徒の感想から、少ない授業時数のなかでも、意欲的に楽しみなことが学ぶことができていたことがうかがえる。しかし、引き技や応じ技などの技能や、残心、細かな礼法など、伝えきれない部分も多く残っている。これからの実践のなかでしっかりと改善していきたい。